

砂押川水系の河川整備の実施に 関する事項について

河川整備学識者懇談会の意見 及び住民意見の反映について

平成29年2月13日

宮城県土木部河川課



目次

1. 河川整備学識者懇談会における意見と河川整備計画（素案）への反映について
2. パブリックコメントの実施及び結果について
3. 地域の方々の意見を聴く会の実施及び結果について

1. 河川整備学識者懇談会における 意見と河川整備計画（素案） への反映について

(1) 各意見の反映状況 (1/2)

懇談会意見	河川整備計画（案）への反映状況
<p>風間委員（事前聴取） 鈴木委員 上流部の開発が進んでいるが、流出が増えるのではないか。〈第2回懇談会〉</p>	<p>本文p.14 開発等による流出増の課題について内容を追加しました。 本文p.53 防災調整池等の流出抑制対策について内容を追加しました。</p>
<p>江成委員 河川が住民にどのように利用されているのか示し、計画に反映させてほしい。〈第1回懇談会〉</p>	<p>第2回懇談会資料「河川整備計画（素案）」において反映しました。（本文p.26,33,43）</p>
<p>田中座長 各河川の歴史的な経緯についても、流域の概要への記載をお願いしたい。〈第2回懇談会〉</p>	<p>本文p.13 河川の歴史的経緯に関する内容を追加・修正しました。</p>
<p>鈴木委員 「生物多様性」に関する内容を記載してほしい。遊水地の掘削実施の際は、生物多様性に配慮していただきたい。〈第1回懇談会〉</p>	<p>第2回懇談会資料「河川整備計画（素案）」において反映しました。（本文p.40）</p>

懇談会意見	河川整備計画(案)への反映状況
<p>伊藤委員 安全の確保と景観の配慮という、相反する課題を持っていることから、防災面だけでなく、自然環境へのふれあいや環境学習の取り組みを含めて住民への説明を行い、啓発活動をしてほしい。 〈第2回懇談会〉</p>	<p>本文p.42 河川の持つ治水・利水・環境など多面的な機能について河川への関心が高まるよう啓発活動に関する内容を追加しました。</p>
<p>中津委員 住民減少、高齢化が進む中で住民が維持管理に参加する気持ちにつなげることが必要。 〈第1回懇談会〉</p> <p>郷古委員 地域との連携による河川管理について課題を把握し、計画に反映させてほしい。 〈第1回懇談会〉</p>	<p>第2回懇談会資料「河川整備計画(素案)」において反映しました。(本文p.28,43,45)</p>
<p>中津委員 今後30年間の途中で、住民意見を聴き、変更することがあるのか。〈第1回懇談会〉</p>	<p>第2回懇談会資料「河川整備計画(素案)」において反映しました。(本文p.29)</p>

2. パブリックコメントの実施及び結果について

(1) パブリックコメント 実施状況

- 公表資料： 砂押川水系河川整備計画（素案），概要版
- 意見募集期間： 平成29年1月6日(金)～平成29年2月3日(金)
- 意見の提出方法： 郵送，電子メール，FAX，ご意見ポスト(意見箱)
- 計画案の公表場所： 宮城県河川課ホームページ，本庁県政情報センター，各地方振興事務所県政情報コーナー，河川課，仙台土木事務所，仙台地方ダム総合事務所，仙台市（市役所・宮城野区役所のみ），多賀城市，利府町



県ホームページによる周知状況

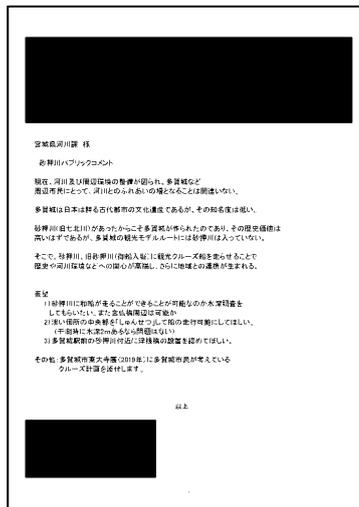


意見箱設置状況

(2) パブリックコメント 実施結果

パブリックコメント

- パブリックコメントでの意見：1名から1件
利用に関するもの 1件



寄せられたご意見

●意見募集結果 1名から1件

意見・提言の内容（要旨）	宮城県の考え方
<p>市民にとって、河川はふれあいの場となることは間違いない。多賀城は日本に誇る古代都市の文化遺産であるがその知名度は低い。歴史価値は高いはずだが、多賀城の観光モデルルートには砂押川は入っていない。そこで、砂押川、旧砂押川（御舟入堀）に観光クルーズ船を走らせることで、歴史や河川環境などへの関心が高揚しさらに地域との連携が生まれる。</p> <p style="text-align: right;">利用</p>	<p>流域内には歴史的土木遺産である貞山運河の一部の御舟入堀（旧砂押川）があります。河川整備計画とは別の取り組みになりますが、「貞山運河再生・復興ビジョン」を策定し、被災した仙台湾沿岸地域が復興のシンボルと誇れる運河として再構築を図る取組を進めています。また、舟運等の河川の利活用が図られる時には、関係市町や地域と連携を図り、河川公園等の既存施設や空間の一層の利活用を促進することとしています。</p> <p style="text-align: right;">（本文中 p.52）</p>

3. 地域の方々の意見を聴く会の実施及び結果について

(1) 地域の方々の意見を聴く会 開催状況

- 開催日時
平成29年1月16日(月) 午後7時～8時
- 開催場所
多賀城市市民活動サポートセンター
- 説明内容
砂押川水系河川整備計画(素案)
- 開催周知
 - ・多賀城市広報 (全戸配布：1月号)
 - ・県政だより (全戸配布)
 - ・宮城県河川課ホームページ



広報誌による周知状況 (多賀城市広報誌)

県ホームページによる周知状況

10

(2) 地域の方々の意見を聴く会 開催結果

- 参加者 10名
- 日時 平成29年1月16日(月)
- 場所 多賀城市市民活動サポートセンター

地域の方々の意見を聴く会

- 意見を聴く会での意見：10名から19件

治水に関するもの 4件, 環境に関するもの 3件,
 利用に関するもの 4件, 維持管理に関するもの 5件,
 その他 3件

(内容が複合する場合は複数カウント)



多賀城市での開催状況

11

(3) 地域の方々の意見を聴く会 意見 (1/5)

●意見を聴く会での意見 10名から19件

意見・提言の内容 (要旨)	宮城県の考え方
河川内の放射線量は把握しているのか。 その他	河川管理者として、河川内の放射線量は測定しておりませんが、河川内の土砂を河川外へ搬出する場合は放射線量が基準値以下であることを確認した上で搬出する措置を取っています。 なお、環境省では県内の河川や湖沼等で放射性物質の濃度等を継続的に調査しています。
河口部の捨石施工のように環境に配慮した整備をして欲しい。 治水 環境	動植物の生息・生育・繁殖環境や河川景観を保全・創出する多自然川づくりを基本として進めていきます。 (本文中 p.34)
御舟入堀では土木遺産として配慮しながら整備を行って欲しい。 環境 利用	御舟入堀(旧砂押川)では、歴史のかおる運河整備事業として貞山公園を整備した経緯があります。また、震災後民間団体が立ち上がり、利活用に関する活動が行われています。このような団体と連携しながら「 貞山運河再生・復興ビジョン 」の取り組みを推進していきます。 (本文中 p.52)

12

(2) 地域の方々の意見を聴く会 意見 (2/5)

●意見を聴く会での意見 10名から19件

意見・提言の内容 (要旨)	宮城県の考え方
堤防沿いに桜を植えて観光に繋げてはどうか。 利用	「貞山運河再生・復興ビジョン」で運河沿いに桜を植える取り組みを行っており、多賀城緩衝緑地や貞山公園に桜の植樹を継続実施しています。
セイタカアワダチソウが繁茂しており堤防の芝を痛めている。 環境 維持	セイタカアワダチソウ等 は重点対策外来種(旧要注意外来生物)で対策の必要性が高い種であるので、適正に処理をしていきます。 (本文中 p.45)
東北地方太平洋沖地震で地盤が沈下したと聞いているがどうなのか。 その他	砂押川流域では30~40cm沈下しました。
護岸を設置したほうがよいのではないか。その一方で護岸を付けると環境面でよくない気がする。 治水	流速のある場所では、堤防が洗掘を受けないよう護岸を設置する必要があります。工事の実施にあたっては、多自然川づくりを基本として進めていきます。

13

(2) 地域の方々の意見を聴く会 意見 (3/5)

●意見を聴く会での意見 10名から19件

意見・提言の内容 (要旨)	宮城県の考え方
現在2つの遊水地があるが、利府ジャンクション辺りに増設して更に安全な計画として欲しい。 <input type="checkbox"/> 治水	計画雨量に対して現在の遊水地で満足しているため増設は難しい。遊水地より下流については整備が概成しているため、今後は遊水地より上流の整備を行う予定です。
堤防天端で未舗装箇所や舗装が壊れている箇所がある。 <input type="checkbox"/> 維持	多賀城市で歩道として整備した経緯があります。天端の舗装にあたっては、壊れにくい(粘り強い)構造という考え方もあるため、今後検討していきたい。
堤防上の柵が壊れており、危険な箇所がある。 <input type="checkbox"/> 維持	現地を確認した上で対応したい。
計画期間が30年というのは長いのではないかと <input type="checkbox"/> その他	河川法では、一連区間において河川整備の効果を発現させるために必要な期間として20~30年間程度と定めており、宮城県内の河川は一律30年の計画としています。 (本文中 p.29)

14

(2) 地域の方々の意見を聴く会 意見 (4/5)

●意見を聴く会での意見 10名から19件

意見・提言の内容 (要旨)	宮城県の考え方
昔ほどの浸水被害はなくなったと思う。一方、ゲリラ豪雨が増えているが。 <input type="checkbox"/> 治水	砂押川は間接流域が大きく、下水ポンプを通じて河川へ排水されます。近年は外水被害はなく内水被害であり、下水道整備が進み被害が軽減されたものと思われます。なお、対象雨量の設定にあたっては、近年の降雨状況も踏まえています。
堆積土砂の撤去とはどのようにしていくのか。 <input type="checkbox"/> 維持	「河川維持管理計画(案)」に基づき、適切な河川維持管理を図ります。堆積土砂の撤去にあたっては、河積の阻害率や背後地の状況などを踏まえて、優先順位を決めながら実施します。 (本文中 p.44,46)
重要な土木遺産である貞山運河では様々な団体が活動しているが、このような活動をまとめていく必要があるのでは。 <input type="checkbox"/> 利用	「 貞山運河再生・復興ビジョン 」で各運河の目指す姿を整理しており、各団体と調整しながら進めていきたいと思えます。引き続きビジョンに基づく取組みを推進していきます。 (本文中 p.52)

15

●意見を聴く会での意見 10名から19件

意見・提言の内容 (要旨)	宮城県の考え方
水と親しめる公園等の整備を望む。 利用	砂押川水系には水と親しめる貞山公園や多賀城緩衝緑地、多賀城駅前には階段護岸があります。こういった既存施設の利活用を推進します。 (本文中 p.43)
超過洪水時の地域防災力の強化とは何か。 維持	水防災意識社会の再構築に関する取り組みを県管理河川でも実施することになったため、本水系でも「減災対策協議会」を今年の出水期前に立ち上げ、ハード、ソフトの取り組みを進めていく予定です。 (本文中 p.51)

ご清聴ありがとうございました



宮城県公式キャラクター「むすび丸」

宮城県土木部